柳　喜重郎先生への献辞

柳喜重郎先生は本年３月31日をもって定年退職されます。先生は1945年２月に新潟市に生まれ，1968年３月に新潟大学人文学部経済学科を卒業し，1978年３月に武蔵大学大学院経済学研究科博士課程を単位取得満期退学しました。そして，同年４月旭川大学経済学部に専任講師として採用され，1979年４月に新潟大学商業短期大学部に専任講師として採用されました。1980年４月に同助教授に昇任されました。1988年に同教授に昇任されました。1994年10月から経済学部に配置換えとなり，1998年８月には大学院経済学研究科併任となり，2001年10月には大学院現代社会文化研究科併任となりました。

先生は新潟大学評議員を2002年４月から２年間と2006年４月から２年間勤めました。また，経済学部学務委員長を2000年４月から２年間と2006年４月から２年間勤めました。丁度，国立大学の独立法人化をはさんだ時期の学内行政を担当することとなりました。

研究においては，財務会計分野における情報会計論を一貫して担当し，1973年にお書きになった論文「会計における客観性概念の一研究」を始めとして関連する論文18編と著書２冊をお書きになりました。その基本的視点は，会計が内包する社会性について企業面，取引面，会計技術面からの接近を試み，アカウンタビリティーをもって包括するところにあります。これは伝統的会計に対峙する現代会計の構築を意図したものです。

教育面においては，「情報会計論」のほかにこれを通して伝統的会計から現代会計への架け橋を教育すると同時に「簿記論」や「初級簿記」という会計の基礎科目を担当しました。また，演習（「会計情報演習」「文献研究」）においては学生の疑問や質問が互いに行き交う状況づくりとそれらが最後にはひとつのテーマへ昇華することを体験できるように努めました。さらに，大学院においては「情報会計研究・演習」「特別研究」を担当し，現代社会における会計の役割を学生の論文と関連させつつ，共に考えるというポリシーを貫きました。

このように先生は学部と大学院教育を通して，本学の会計教育内容の充実に大きく貢献してこられました。こうした先生の学問と教育の貢献のみならず校務での献身的な活動を讃え，またこれに感謝し，献辞といたします。

2010年３月

新潟大学経済学会長
佐　藤　芳　行